

井戸いどに落ちた神様かみさま

むかし、むかし、あつただど。

会津の地に人の住み始めた頃の話だど。礫つぶての村には、大きな杉の木が何本かあつただど。ある時、大変わんぱくな三人の子供の神様が遊んでいただど。

「今日はこの大杉にどこまで登れつか競争きょうそうすんべ。」

と言って、赤い神様、青い神様、黄色い神様の三人が登り始めただど。

赤い神様は、大変上手じょうずでまるで猿のように、「ヒョイ、ヒョイ。」と天上の方まで登っていっただど。

青い神様と黄色い神様は、なかなか登らんぎだど。それを見て、赤い神様は、

「オーイ早く登ってこいよ。」

と言いながら細い枝の方まで登っていったと思つたら、とたんに、「ミリ、ミリ。」と枝が